

# 第3章

## 「Society 5.0」に向けた行動変化



## 第3章

## 「Society 5.0」に向けた行動変化

我が国の景気は緩やかに回復しており、経済の好循環は着実に進展しているものの、今後の少子高齢化の進展等を考慮すると、中長期的な経済活力を維持・向上させていくためには、第4次産業革命と呼ばれる近年のイノベーションを加速し、社会実装を進め、その成果を経済成長や国民生活の豊かさにつなげる「Society 5.0」の実現が求められている。

本章では、第4次産業革命の世界的な動向と、それが経済社会に与える影響について整理するとともに、我が国経済が国際的にみて競争力とイノベーションの優位性を保つための課題を探るために、知識・人的資本・技術力などの「イノベーションの基礎力」と、組織の柔軟性・起業家精神などの「イノベーションへの適合力」の2つの大きな要素に分けて、国際比較を交えながら日本の強みと弱みを整理する。その上で、第4次産業革命が進展する中で、企業の労働分配率や生産性がどのように変化しているかについても、企業レベルのデータを用いた実証的な分析を行い、我が国経済が持続的成長を実現するための課題を考察する。

## 第1節 第4次産業革命の社会実装

AI、ロボット、ビッグデータなど近年急速に進展している第4次産業革命のイノベーションを、あらゆる産業や社会生活に取り入れることにより、様々な社会課題を解決するのが「Society 5.0」<sup>1</sup>。本節では、こうした第4次産業革命がもたらす様々な変化と、それが経済社会へどのような影響をもたらし得るかについて、他国との比較も交えながら、整理する。

## 1 第4次産業革命の進展と経済構造への影響

## ● 第4次産業革命がもたらす変化、新たな展開

近年の情報通信ネットワークの発達やIoT、AI、ビッグデータ、ロボットの発展等により、

注 (1) この点、政府が2018年6月に決定した「未来投資戦略2018」では、「Society 5.0」を構築する原動力として、新しい技術やアイデアをビジネスに活かす民間のダイナミズムの重要性を指摘しており、産業界は様々なつながりにより付加価値を創出するConnected Industriesに自らを変革し、イノベーションをけん引することが期待される、としている。